

## ～会員だより～「北海道高等学校養護教諭研究会に参加して」

3名の新採用の会員の方に感想をいただきました。お忙しい中お引き受けくださり、心より感謝申し上げます。

### 北海道富良野高等学校 神田 萌 先生

この度は、お忙しい中、養護教諭研究協議会を開催していただき誠にありがとうございます。私は、今年大学を卒業し、4月から新任の養護教諭として毎日、様々な知識や経験を積んでいる最中です。そんな中での今回の養護教諭研究協議会は、日々の業務を行う中での疑問点に対しての意見交換、情報共有を行うことができ、とても良かったです。

今回、性教育の講演がありましたが、その中に、「性教育はすべての教員が携わるべきものが基本となっています」という話があったのが私の中ですごく印象に残っています。大学時代から性教育の在り方について考える機会がありましたが、結果的に養護教諭や保健体育科の教員だけで性教育を行っていることが多く、その原因として他の教員への理解を得ることが難しいということがよくあげられていました。他の教員への理解を得るための方法についてもっと深く考えていく必要があると改めて感じました。

仕事をしていく中で知識や経験を深めていくことや、迅速に対応できるようになること等、養護教諭としての専門性をこれからももっと磨いていきたいと思えます。また、研究会で得た知識を積極的に取り入れる意識を持ちながら日々の業務に努めていきたいです。

### 北海道広尾高等学校 西 さくら 先生

本研究協議会に参加して、貴重なご講演や先輩養護教諭の先生方との交流をとおして、必要な知識や考え方、養護教諭としての役割を学ぶことができました。

私は働き始めてまだ半年も経っていませんが、実際の現場では、怪我の手当よりも健康相談などの精神面に関する対応が求められることが多いと感じています。ご講演では、精神疾患をもつ生徒に対して、解決法を話すことは相手を否定することになるため、問題解決法を使って、そのプロセスを援助するだけで良いということ学びました。医療機関のような認知行動療法ができなくとも、子どもの話を「傾聴」「受容」「共感」しながら個別モデルを作成し、一緒に問題点を考えるなど養護教諭としてできることを増やしていきたいです。

性教育に関しては、指導の重要性は高まってきていると思いますが、例えば、「分娩室」というワードだけでも気分が悪くなってしまう子どもがいることから、一人一人を配慮した指導をしていく必要があることを学びました。性教育をとおして自分の心と体を大切にするという延長線で、他人も大切にして欲しいということを伝えていけるように努めます。

改めて、多くのことを学んだ有意義な時間となりました。このような機会を設けていただきありがとうございました。

### 北海道佐呂間高等学校 後藤 里緒 先生

今回は、このような貴重な機会をいただき、ありがとうございました。4月から新採用として本校に着任し、日々試行錯誤しながら保健室経営を行っているため、とても勉強になる2日間でした。ありがとうございました。

全てのご講演の中で、生徒との関わりの中でどのように反映するべきか考えながら受けました。その上で、清水先生のご講演の中では、発達段階に応じた問題解決法をヒントに生徒への対応を行っていきたく感じました。蓮尾先生の講話の中では、本校で各学年に性教育講話を行っているため男女で同じ内容かつ高校生だからこそ伝えなければいけない、保健の授業を踏まえた深い学びを育成するための性教育を行っていかうと思いました。

今回の研究会に参加して、ご講演について勉強になったのはもちろん、普段はなかなか出会うことができない多くの養護教諭と情報を共有する機会も自分自身の力となり、さらに頑張ろうという気持ちが増した研究会となりました。学び続ける姿勢を大切に、生徒との関わりに繋げていきたいです。



# 高養研

発行 北海道高等学校養護教諭研究会  
事務局 北海道札幌月寒高等学校  
〒062-0051 札幌市豊平区東1条3丁目1-1  
TEL 011-851-3111 FAX 011-851-3112  
<http://koyoken.sakura.ed.jp/myks/hyousi.html>

## 北海道高等学校養護教諭研究会第38回研究協議会報告

令和5年7月26日(水)・27日(木)に、かでの2・7(札幌市中央区北2西7)で、北海道高等学校養護教諭研究会第38回研究協議会を開催しました。

今年、講師に清水栄司氏(千葉大学大学院医学研究院 認知行動生理学 教授)、蓮尾豊氏(あおもり女性ヘルスケア研究所 所長)をお迎えし、研究発表は柴田加奈先生(岩見沢東高校(定) 養護教諭)、森川綾乃先生(岩見沢緑陵高校 養護教諭)に発表していただきました。北海道教育庁学校教育局 健康・体育課 健康・体育指導係 係長 篠原弥智氏からは、「学校保健の課題とその対応」と題して情報を提供していただきました。

講演1「保健室で活用できる認知行動療法ー学校でのWEBストレスチェックを含めてー」は、具体的なモデルをあげて認知行動療法をわかりやすく説明していただきました。保健室で取り組む際の参考となる資料やマニュアルも多数紹介され、会員からは「生徒対応時に活用できる講演内容と資料提供だった」「保健室でもできる認知行動療法、ぜひ自校でも導入したい」など、意欲的な感想が多数寄せられました。



講演2「青森県の産婦人科校医制度と私の行う性教育の実際」は、情熱あふれる産婦人科校医による多角的な性教育が提供されている青森県をうらやましく思うと同時に「自校の生徒にも伝えたい」と心を動かされながら、あっという間に時間が過ぎました。

蓮尾先生が長年の経験の中で精選・整理された性教育の集大成を見せていただき、大変勉強になりました。

研究発表「『学校三師との連携』～よりよい連携のために～」は、多くの会員が課題として抱えている内容で、それぞれが前向きに考える良い機会となりました。

研究協議では、三師との連携が難しくなる問題点やその解決法、有効な三師の活用事例、学校保健委員会での連携など活発な情報共有が行われ、「自校に帰って活かしたい」と意欲が湧いてくる有意義な時間となりました。



